

〈飛べないチョウ〉

今日も暖かい1日だった。菜の花の周りにはモンシロチョウやベニシジミが飛び回り、長閑な時間が流れている。菜の花は食用に育てたものでもう食べるころはない。タネ用に2~3株残しておけばいいのだが、こうして毎日チョウやハチがやってくると処分するのがつつい後回しになってしまう。黄色い花は遠くからでも目立つらしく、通りがかりの人も、「少し分けていただけませんか？」などと畑に入ってくる。景観的にも少しは春らしい雰囲気になるようなのもう少し残しておこうと思う。



花から花へと敏捷に飛び回るチョウがいる一方、足元で逆さになりながらバタバタともがいているモンシロチョウがいた。うまく飛べずに、地面の上で羽をばたつかせている。どうしたのかと表返しにしたら翅が開ききっていない。サナギ時代に何かアクシデントがあったのだろうか、規則正しく折りたたまれているはずの翅が変な場所に折り目がついて開かないのだ。どうあがいても裏返しのままバタバタしているだけで飛べずにいる。恐らく1時間もしないうちにカラスかヒヨドリに見つかり食べられてしまう運命なのだろう。自然界で生き残るには、強く丈夫な体と強運が必要なのだ。これからこの畑でもたくさんのチョウが生まれていくが、生き残れるのはほんの数頭であとは他の生き物のエサになる。そうやって生き物同士はお互いに繋がりあって生きていく。飛べないチョウにも飛べないなりの役割がちゃんとある。